

読 響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

MAHLER 最強の美 BEETHOVEN
Symphony No. 5 in C sharp minor “音楽の都”ウィーンが生んだ二つの傑作
Piano Concerto No. 4 in G major, op. 58
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第4番 長調 作品58

マーラー:交響曲 第5番 嬰ハ短調

Conductor= SEBASTIAN WEIGLE
世界の聴衆を魅了するドイツの名匠
読響常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ

Piano= RUDOLF BUCHBINDER
“現代最高のベートーヴェン弾き”
ピアノ
ルドルフ・ブッフビンダー

9.20 読売日本交響楽団 第625回 名曲シリーズ
サントリーホール
Fri. 19:00 2019 Popular Series No. 625 Suntory Hall
S¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥4,000

9.21 読売日本交響楽団 第220回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール
Sat. 14:00 2019 Saturday Matinée Series No. 220 Tokyo Metropolitan Theatre
S¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

9.22 読売日本交響楽団 第220回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール
Sun. 14:00 2019 Sunday Matinée Series No. 220 Tokyo Metropolitan Theatre
S¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

読響チケットセンター
0570-00-4390
(10時-18時・年中無休)
<https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 共催: 東京芸術劇場(公益財団法人 東京都歴史文化財団) [21日、22日] 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

©Marco Borggreve



苦しみ、喜び、切なさ、愛...
人生のすべてが凝縮された
マーラーの傑作。

読響常任指揮者
セバスティアン・ヴァイグレ

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス〈影のない女〉を振り、雑誌『オーパルヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年から

フランクフルト歌劇場音楽総監督の任にあたる。同歌劇場は『オーパルヴェルト』の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。

マーラーの音楽には、世界中で愛され、現代人をも夢中にさせる何かがある。交響曲第5番は、孤独と闘うかのような冒頭のトランペットに始まり、フィナーレでは人生の美しさを高らかに謳いあげる。様々な感情を揺さぶられる快感があり、同時に胸がしびれるほどの美しさや儚さを持っている。中でも“愛の楽章”と呼ばれる第4楽章“アダージェット”は、この世のありつたけの美を詰め込んだかのように甘く、輝かしく、しかも切ない。他の4つの楽章も、それぞれ異なった聴きどころにあふれ、重厚で迫力あるサウンドと、繊細でうっとりするような調べが次々に表れ、大編成の管弦楽が織り成す興奮のクライマックスが聴く者を圧倒する。人生のどん底の苦しい日々と一番幸せな時間の思い出が、一気に駆け巡るかのようだ。

今回、タクトを振るうのはドイツの本格派ヴァイグレ。今年5月の常任指揮者就任披露演奏会では、その流麗な音楽作りが絶賛されて話題を呼んだ。ヴァイグレは指揮者に転向する前、ベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として多くの名演に携わってきた。マーラーの第5番も、スウィトナー、K.ザンデルリク、バレンボイムら巨匠の指揮で演奏した経験を持つ。曲の魅力をオーケストラの内外から知り尽くしたヴァイグレは、読響の各奏者の能力を存分に引き出し、精緻でダイナミックな音楽を作るだろう。

前半には、ウィーン伝統を受け継ぐ正統派のピアニストで“現代最高のベートーヴェン弾き”として名高いブッフビンダーが登場。今、最も聴くべき巨匠の一人だ。5歳からウィーンで神童として名を馳せ、今もウィーン・フィル、ベルリン・フィルなど一流楽団と共演、ザルツブルクをはじめとする国際的な音楽祭でも活躍している。音楽の都“ウィーンの宝”として愛されている彼は、楽聖ベートーヴェンの作品を常にライフワークとしてきた。膨大な量の楽譜を研究し、徹底的に作曲家の意図を追求している彼の演奏は、あたたかも今この瞬間に曲が生まれたかのような自然さとみずみずしさをもっている。巨匠の至善を、心行くまでご堪能いただきたい。



ピアノ
ルドルフ・ブッフビンダー

ウィーンが誇る“現代最高のベートーヴェン弾き”。5歳でウィーン音楽大学に入学。アバド、アーノンクール、メータらの指揮で、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルなど一流楽団と共演を重ね、70歳を超えた今でも世界の第一線で活躍している。ベートーヴェン作品の演奏をライフワークとしておヴェン作品の演奏も数多く、ドイツ・グラモフォンと専属契約も結んでいる。今年10月から2020年にかけて、ウィーン楽友協会とベートーヴェン生誕250年を記念し、5つのピアノ協奏曲を、5つの楽団(ムーティ指揮ウィーン・フィル、ティエリマン指揮ドレスデン国立歌劇場管、ヤンソンス指揮バイエルン放送響、ゲルギエフ指揮ミュンヘン・フィル、ネルソンス指揮ゲヴァントハウス管)と演奏する。

プログラム
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58
マーラー:交響曲 第5番 嬰ハ短調

読売日本交響楽団 第625回 名曲シリーズ
2019年 9月20日(金) 19時開演
 S ¥7,500 A ¥6,500 B **SOLD OUT** C **SOLD OUT**

サントリーホール
 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001
 ●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分
 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

読売日本交響楽団 第220回 土曜マチネーシリーズ
2019年 9月21日(土) 14時開演
 S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥4,000

読売日本交響楽団 第220回 日曜マチネーシリーズ
2019年 9月22日(日) 14時開演
 S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥4,000

東京芸術劇場コンサートホール
 東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111
 ●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分
 (*駅地下通路2b出口と直結しています)

読響サービス 東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。わらべうた0120-415-306(予約受付:平日9時-17時) 学生券 学生の方向け。開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター *10時-18時・年中無休
0570-00-4390

読響チケットWEB *座席選択可/チケット郵送料無料
<http://yomikyo.pia.jp/>

チケットぴあ 0570-02-9999
 サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017
 (20日公演)

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296
 (21日、22日公演)